

写真を通じたアフリカの生活世界と家族の変容の歴史的考察

ーセネガル人の記念写真を事例にー

平成19年入学

派遣先国：セネガル共和国

太田 雅子

キーワード：セネガル，写真史，記念写真，生活世界，文化的実践

対象とする問題の概要

19世紀前半に西洋で発明された写真は、帝国主義の高まりとともにレンズを植民地にむけ、現地のひとびとをポストカード写真に収めたり、世界博覧会での見世物として展示したりした。アフリカも例外ではなく、特に帝国主義的関心を反映した現地のプリミティブな表象が目立ったことから、外来の媒体である写真は、現地の人びとにとって馴染みのない文化的実践であると考えられていた。

しかし実際には、特別にセネガルの植民地都市で暮らすことを認められたアフリカ人が、20世紀初頭から写真スタジオや自宅で写真撮影を現地の写真家に依頼していたことが先行研究で報告されている。現在では、写真は通過儀礼や祭日を記念に残すための不可欠な媒体であり、後世に過去の記録・記憶を残すための手段として活用されている。

研究目的

本研究は現地の生活世界のなかで利用される写真の役割を浮き彫りにすることで、現地の人びとにより沿った視点からセネガルにおける写真文化の創造を歴史的に解明することを目的としている。生活世界はあるグループが共有し経験する意識、価値観や習慣から構成される日常世界であることから、その中で利用される写真にまつわる認識を現地の人びとに近い視点から浮き彫りにすることで、写真の歴史的な普及を再解釈する可能性を秘めている。それだけでなく、写真の記録の役割を活かした歴史的な考察は、慣習の変化を確認することを可能にし、また家族のあり方や価値観の変容を明らかにする有効な方法でもある。

本調査では、首都ダカールを拠点に、旧首都のサン・ルイ、そして内陸部に位置するポドールとカオラックで調査をおこない、セネガルの生活世界とのかかわり合いの中から写真の役割を歴史的に解明することを目的とした。

フィールドワークから得られた知見について

本調査の概要として、スタジオ写真家35人、記念写真撮影を依頼したことのある110人、研究教育機関の写真家3人、そしてメディアや美術界で活動する写真家19人へのインタビューおよび公文書・

研究機関での資料収集が挙げられる。その主たる成果は以下の通りである。

セネガル研究調査センターで調査をおこなった結果、セネガル人が古くからデッサンやガラス絵を家の中で飾っていたことが分かり、ウォロフ語で<写真>*nataal; portale* がそれぞれ描画・肖像の意味を指すことから、写真と描画の密接な関係が示唆された。

同センター収蔵の歴史写真から、スタジオが古くから壁画、カーテン、電話やソファを利用し、客間に見立てた空間を提供していたことが分かった。現在の写真スタジオでは、安価で簡単に取り替えることのできる写真ポスターが好まれており、壁画の数は減少している。写真家は、最も客足の多いイスラームの祭日（コリテとタバスキ）を中心にスタジオの改装を行っている。顧客は若い女性やカップルが大半を占めており、スタジオでの記念写真撮影は若者を中心とした文化的実践であると考えられる。

写真スタジオで記念写真を依頼したことのある顧客 110 人へインタビューをした結果、半数以上が写真家に記念写真の撮影を依頼するのに対して、写真撮影は自宅で行われることが多く、撮影場所は最も体裁が良いとされる客間が選ばれている。セネガルでは、結婚式や子供の名付け式の披露宴が自宅で開かれることが多く、客間は招待客が話しに花を咲かせる場所である。

上記のことから、セネガルの生活世界において、記念写真のほとんどは特別な行事（被写体が着飾っている時）に撮影され、セネガルの若者は祭日を中心にスタジオ（若者の世界）と自宅（家族や年長者と共有する規範が持たれる世界）を行き来しながら様々な自己像を写真に収めていると考えられる。

今後の展開・反省点

今後の半年間は研究発表から得られたアドバイスをもとに、現地調査で集めた一次資料を総合的に見直し、文献購読に力を入れるなどして投稿論文の執筆に専念したい。また、ヨーロッパにおけるスタジオ写真は肖像画を起源とし、写真家が近代画家のスタジオ装飾を模したと報告されている。このことから、ヨーロッパとアフリカの写真スタジオとの結びつきや相違点を歴史的に検討したい。最後に次の調査計画をさらに緻密に練り、世帯訪問を引き続き行うことで、写真アルバムの分析と写真資料の収集を積極的にすすめることとしたい。

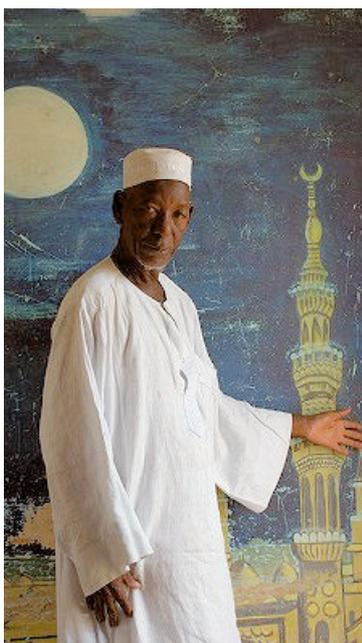


図 1.

1960 年代よりセネガル北部のポドール市で写真スタジオを運営してきたウマル・リー氏。現存の壁画は聖地マッカを描いたもの。



図 2.
ダカール市にあるスタジオの内装。一般セネガル人家庭で見られるような客間に見立てている。



図 3.
大みそかに撮影された写真。友人同士でスタジオへ行き写真を交換している。これらの写真は女性Aのものでありながら、実家のG村で母親が他の写真と一緒にアーカイブしていた。(写真家・撮影年不明)